

平成 18 年 12 月期 第3四半期財務・業績の概況(連結)

平成 18 年 10 月 31 日

会社名 株式会社ベルパーク ( JASDAQ・コード番号 : 9441 )  
 (URL <http://www.bellpark.co.jp>)  
 代 表 者 役職・氏名 代表取締役社長 西川 猛  
 問合せ先責任者 役職・氏名 執行役員管理本部長 石川 洋 TEL:(03) 3288-5211

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
 (内容) 税金費用の計算については、法定実効税率をベースとした簡便な方法によっております。  
 その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便な手続きを用いております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 18 年 12 月期第3四半期財務・業績の概況(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (百万円未満切捨)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年 12 月期第3四半期	17,404	( △3.6)	575	( △21.3)	583	( △20.5)
17 年 12 月期第3四半期	18,053	( 56.4)	730	( 60.5)	734	( 58.4)
(参考)17 年 12 月期	24,355		948		946	

	四半期(当期)純利益		1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
18 年 12 月期第3四半期	310	( △15.3)	4,936	74	4,903	23
17 年 12 月期第3四半期	367	( 107.5)	5,774	67	5,749	86
(参考)17 年 12 月期	483		7,617	43	7,583	04

(注)① 期中平均株式数 18 年 12 月期第3四半期 62,982.38 株 17 年 12 月期第3四半期 63,605.07 株  
 17 年 12 月期 63,434.33 株

② 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同期増減率を示しております。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

(当第3四半期連結業績の概況)

当第3四半期における我が国経済は、企業収益における改善が続くとともに、当社グループの業績に強い影響をもつ個人消費においても、緩やかな増加が続くなど比較的堅調に推移しました。

このような経済状況のもとで、当社グループでは、移動体通信機器販売事業における利益の確保、新規事業のネットワーク事業での収益の改善及び人材サービス事業の育成に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期(9ヶ月累計)における業績は、売上高 17,404 百万円(前年同期比 96.4%)、営業利益 575 百万円(同 78.7%)、経常利益 583 百万円(同 79.5%)、四半期純利益 310 百万円(同 84.7%)となりました。

(事業の種類別セグメントの業績の概況)

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①移動体通信機器販売事業

移動体通信機器販売業界においては、移動体端末向けの地上デジタル放送サービス、いわゆるワンセグ対応端末が発売されるなど、需要の拡大が見込まれました。しかしながら、今年 10 月にスタートする番号ポータビリティ制度を目前にした顧客の買い控えも一部で見られ、市場全体の加入者純増数は 363 万回線(前年同期は 364 万回線)にとどまりました。当社グループが主力として取り扱うソフトバンク(旧ボーダフォン、以下同じ。)は、ワンセグ

対応端末及び薄型端末の販売は比較的好調に推移したものの、全体の販売数量は想定したほどの伸びが見られませんでした。これは、10月からのソフトバンクへのブランドチェンジ及び新サービス展開等への期待感による買い控えも影響したものと認識しております。

このような環境の中で、当社グループでは、主に、残された成長市場である法人市場への対応強化、店舗での顧客ニーズに応じた販売活動の徹底に注力しました。法人市場への対応については、セールス担当者を増員するなど体制を強化した上で、新規顧客の開拓及び店舗に来店される法人顧客に対するフォロー営業等により、効率的に収益を拡大しました。一方、店舗での販売活動については、乱売競争の回避による粗利益の確保、3G端末の販売増に伴い需要の高いSDカード等の付属品商材の販売強化並びに新規販売だけに偏らない顧客満足度の維持・向上を意識した機種変更及びアフターサービス等のバランスを考えた販売に取り組みました。

当第3四半期(9ヶ月累計)における移動体通信機器販売事業の売上高は16,060百万円(前年同期比94.4%)、営業利益は950百万円(同82.1%)となりました。

## ②ネットワーク事業

ネットワーク事業においては、当社グループが主力として取り扱う基本料金直収型の固定電話サービスにおける市場全体の契約数が、通信事業者の同分野への投資抑制もあり、サービスがスタートした前年に比べて縮小するなど、当社グループにとっては大変厳しい環境となりました。

このような環境の中、当社グループでは、事業収支の改善を重視し、事業規模及び商材の見直しを行いました。しかしながら、主力のKDDIメタルプラスの営業を実質的に8月に終了したことから、営業損失を計上する結果となりました。

当第3四半期(9ヶ月累計)におけるネットワーク事業の売上高は422百万円(前年同期比86.3%)、営業損失は60百万円(前年同期は営業損失131百万円)となりました。

## ③人材サービス事業

人材サービス事業の主力である携帯電話販売スタッフの派遣においては、番号ポータビリティ制度を目前に控え、各種キャンペーンへの派遣需要が増加するとともに、携帯電話販売代理店各社の派遣スタッフ活用の傾向が強まるなど、派遣スタッフへの需要は堅調に推移しました。しかしながら、景気回復の影響が雇用面にも広がりを見せる中、派遣労働から正規雇用への雇用形態の転換の動きも一部に見られるなど、前年度に比べ人材の確保が難しい状況となりました。

このような環境の中、当社グループでは、前年下半期に半期黒字化を達成したことから、追加投資に踏み切り、大阪に拠点を開設いたしました。当年上半期は先行投資の影響により、営業損失を計上する結果となりましたが、当第3四半期の直近3ヶ月間(7月～9月)では、大阪拠点開設の効果もあり、売上高は順調に伸長し、営業損益も黒字となりました。

当第3四半期(9ヶ月累計)における人材サービス事業の売上高は1,108百万円(前年同期比180.3%)、営業損失は11百万円(前年同期は営業損失31百万円)となりました。

## (2) 財政状態(連結)の変動状況

(百万円未満切捨)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年12月期第3四半期	5,898	3,640	61.7	57,730	63
17年12月期第3四半期	6,055	3,265	53.9	51,895	28
(参考)17年12月期	6,810	3,383	49.7	53,774	30

(注) 期末発行済株式数 18年12月期第3四半期 63,056.68株 17年12月期第3四半期 62,927.68株  
17年12月期 62,927.68株

## 【連結キャッシュ・フローの状況】

(百万円未満切捨)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年12月期第3四半期	414	△10	△160	1,761
17年12月期第3四半期	△501	△416	△48	1,362
(参考)17年12月期	△264	△498	△48	1,517

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態の変動状況)

当第3四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べて911百万円減少し5,898百万円となりました。流動資産においては、現金及び預金が243百万円増加し、売掛金及び営業未収入金が534百万円、たな卸資産が533百万円減少いたしました。流動負債においては、買掛金及び営業未払金が713百万円、未払法人税等が312百万円減少いたしました。

固定資産、固定負債につきましては大きな変動はありません。

純資産は四半期純利益の計上等により、前連結会計年度末に比べて256百万円増加し3,640百万円となりました。この結果、自己資本比率は61.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は1,761百万円となり、前連結会計年度末に比べて243百万円増加いたしました。

- ・ 営業活動の結果獲得した資金は414百万円となりました。税金等調整前四半期純利益582百万円、売上債権の減少額534百万円、たな卸資産の減少額537百万円、仕入債務の減少額713百万円、及び法人税等の支払い536百万円等によるものであります。
- ・ 投資活動の結果使用した資金は10百万円となりました。主に有形固定資産96百万円の取得、投資有価証券の取得113百万円及び投資有価証券の売却138百万円等によるものであります。
- ・ 財務活動により使用した資金は160百万円となりました。長期借入金107百万円の返済及び配当金62百万円の支払いによるものであります。

## 3. 平成18年12月期の連結業績予想(平成18年1月1日～平成18年12月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	23,000	700	350

(注) 上記数値は公表されている業績予想と同じであり、変更はありません。

なお、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

[業績予想に関する定性的情報等]

平成18年12月期の通期業績予想に対する当第3四半期(9ヶ月累計)の売上高、経常利益及び四半期純利益の進捗状況は、それぞれ75.7%、83.4%及び88.8%であり、今後も引き続き通期業績予想の達成に向けて注力してまいります。

なお、平成18年10月23日に主力の移動体通信機器販売事業の取引先であるソフトバンクモバイル社から新料金プランが発表され、10月24日以降の番号ポータビリティ制度にインパクトのある一石が投じられましたが、現時点において当社の業績に与える影響は判断できかねるため、平成18年8月9日に発表しました中間決算短信に記載の業績予想の変更は行っておりません。

## 〔添付資料〕

## 1. (要約)四半期連結貸借対照表

(単位:千円、%)

科目	当四半期 (平成18年12月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 平成17年12月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産	4,527,661	4,673,827	△146,165	△3.1	5,378,008
II 固定資産	1,371,021	1,381,379	△10,358	△0.7	1,432,575
有形固定資産	335,810	280,452	55,358	19.7	323,233
無形固定資産	32,338	25,675	6,662	26.0	22,316
投資その他の資産	1,002,872	1,075,251	△72,379	△6.7	1,087,025
資産合計	5,898,682	6,055,206	△156,523	△2.6	6,810,583

(負債の部)					
I 流動負債	2,173,186	2,604,263	△431,076	△16.6	3,243,639
II 固定負債	85,194	185,292	△100,098	△54.0	183,051
負債合計	2,258,380	2,789,556	△531,175	△19.0	3,426,691
(資本の部)					
I 資本金	—	1,086,140	—	—	1,086,140
II 資本剰余金	—	1,540,547	—	—	1,540,547
III 利益剰余金	—	845,958	—	—	961,866
IV その他有価証券 評価差額金	—	1,039	—	—	3,373
V 自己株式	—	△208,036	—	—	△208,036
資本合計	—	3,265,650	—	—	3,383,892
負債及び資本合計	—	6,055,206	—	—	6,810,583
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金	1,090,878	—	—	—	—
2. 資本剰余金	1,545,286	—	—	—	—
3. 利益剰余金	1,209,866	—	—	—	—
4. 自己株式	△208,036	—	—	—	—
株主資本合計	3,637,995	—	—	—	—
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券 評価差額金	2,306	—	—	—	—
評価・換算差額等合計	2,306	—	—	—	—
純資産合計	3,640,302	—	—	—	—
負債純資産合計	5,898,682	—	—	—	—

## 2. (要約)四半期連結損益計算書

(単位:千円、%)

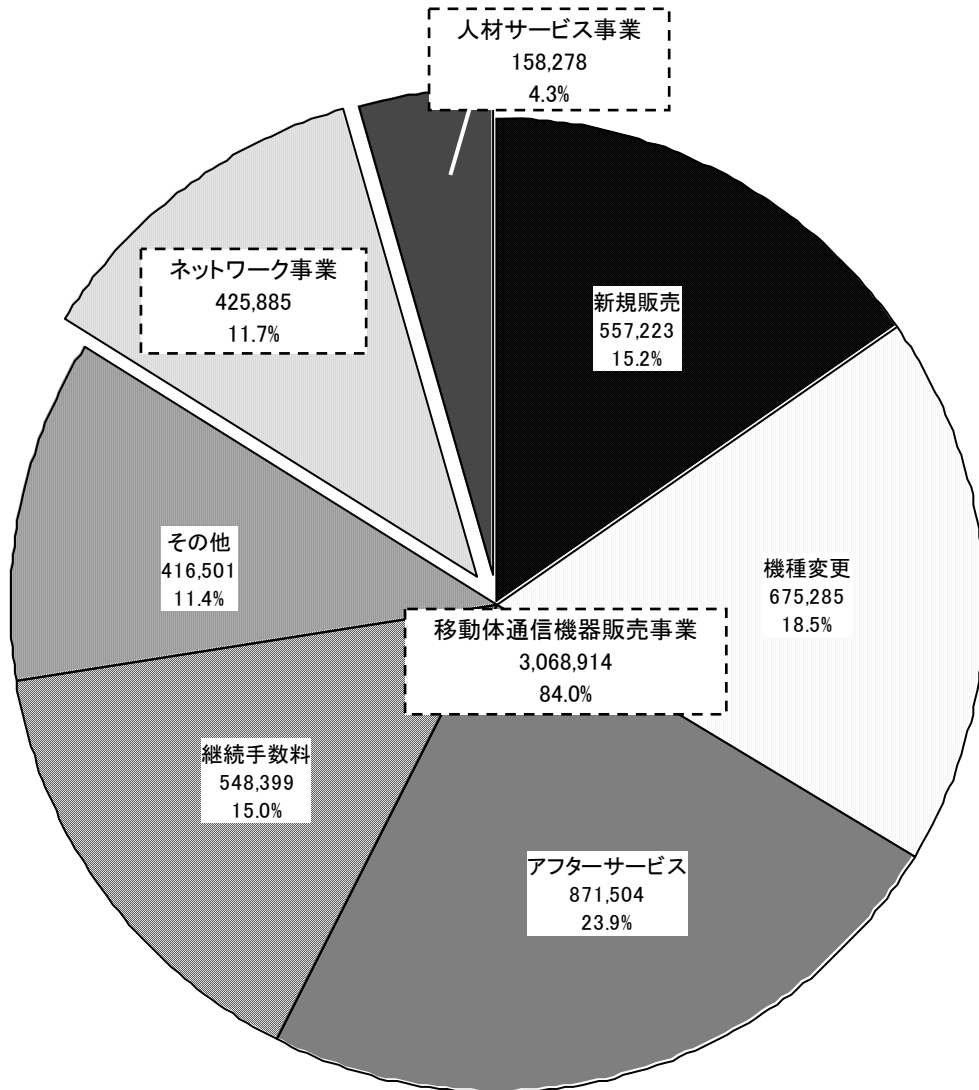
科目	当四半期 (平成18年12月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期)	増 減		(参考) 平成17年12月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	17,404,474	18,053,320	△648,845	△3.6	24,355,489
II 売上原価	13,751,397	14,653,940	△902,543	△6.2	19,671,400
売上総利益	3,653,077	3,399,379	253,698	7.5	4,684,088
III 販売費及び一般管理費	3,077,970	2,668,762	409,207	15.3	3,735,328
営業利益	575,107	730,616	△155,509	△21.3	948,760
IV 営業外収益	18,316	15,760	2,555	16.2	22,363
V 営業外費用	9,765	12,288	△2,522	△20.5	24,866
経常利益	583,657	734,089	△150,431	△20.5	946,257
VI 特別利益	31,315	—	31,315	—	—
VII 特別損失	32,788	15,035	17,752	118.1	18,267
税金等調整前四半期 (当期)純利益	582,185	719,053	△136,868	△19.0	927,989
税金費用	271,257	351,754	△80,497	△22.9	444,783
四半期(当期)純利益	310,927	367,298	△56,370	△15.3	483,206

(参考資料)

1. 連結売上総利益構成

平成 18 年 12 月期 第3四半期(平成 18 年1月1日～平成 18 年9月 30 日)における連結売上総利益構成は以下のとおりです。

(単位:千円)  
(千円未満切捨)



- ※ アフターサービスとは、既契約者の機種変更、料金プラン変更、故障対応等通信事業者から受託している業務の総称です。
- ※ その他にはプリカ端末、付属品等の販売が含まれています。
- ※ 2G 新規販売と3G 新規販売の合計を「新規販売」、2G 機種変更と3G 機種変更の合計を「機種変更」としております。

(参考資料)

## 2. 携帯電話販売実績推移

平成 18 年 12 月期 第 3 四半期(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)における販売台数の推移は以下のとおりです。

(単位:台)

